

名稱

野人參、薩摩人參ナド稱セリ、藥種ハ往時諸國貢租ノ一ニシテ、朝廷ニテハ典藥寮ヲシテ、此ヲ丹膏丸散等ノ諸藥ニ製セシメ、以テ諸司ノ用ニ供シ、又疫癘流行ノ地方ニ賜ヒテ、濟世惠民ノ一端ト爲シタリ、徳川時代ニモ亦賜藥ノ恩ヲ施シタル例アリ、凡ソ製藥ニハ丹膏丸散湯煎等ノ別アリテ、種類極メテ多ク、其方劑ニハ家傳ト稱スルモノアリ、又寺院神社等ニモ特種ノ藥法ヲ傳ヘ、神佛ノ夢想ナド號シテ之ヲ製スル所甚ダ多カリキ、

本草ハ草木ヲ始メ、金石其他一切ノ庶物ヲ辨識シ、其藥性ヲ考ヘ、藥劑ノ製方ヲ研究スル學術ニシテ、徳川時代ニ至リテ大ニ發達シ、醫術ノ進歩ヲ助ケシコト少カラズ、而シテ藥品會等ノ起レルモ亦此際ニ在リキ、

〔運步色葉集久〕藥久〔同和〕倭藥

〔倭訓栞前編久〕くすり 藥をいふ、草する也、藥の字、草に從ふも同じ、諸藥の内に、草尤多し、よて藥錄をも本草といひ傳へり、

〔箋注倭名類聚抄藥酒四〕藥 說文云、藥、治病草、素問藏氣法時論注云、藥謂金玉、土石、草木、菜菓、蟲魚、鳥獸之類、皆可以祛邪養正者也、昌平本、下、總本有和名二字、按古謂酒爲久志、古事記神功皇后御歌、久志能加美、應神天皇御歌、許登那具之、惠久具之、皆是、久須久志通音、利是活語耳、以藥與酒其功用同、其名亦同也、廣本無是條、

〔奇魂一〕醫藥名義附井醫藥變化

病を愈す動植をくすりと云、原義は令和オクシの意也、其は神を和オクし、人を和オクめ、風の和波オクナミの和オクにて、其詞の活用は、自のかたは、ながん、なぎ、なぐ、なげにて、體言になれば、なぎなり、物を然するかたは、和オクさん、なぐし、なぐす、なぐせにて、體言になれば、なぐし也、名越祓ナギハヒと云も音通、神を和し奉る也、夏ナツを越オクなり云、拾遺集に、さばへなすあらふる神もをしなべてけふはなごしのはらへなりけり、